

# 共同礼拝

2023年5月21日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 ヨハネによる福音書4章23節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

ゼカリヤ書 8章16, 17節 (旧1488)

マタイによる福音書 14章1~12節(新27)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 11 (1, 2)

説 教 「誓いの愚かさ」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 348 (1, 2)

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 5月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の導きにより、困難な中でも信仰が力づけられ、慰めが与えられ、終わりの時の希望を持つ教会としての歩みを果たすことができるように。

戦火のもと、苦しみと不安の中にある人々に主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

犠牲者が減らされ、平和がもたらされるように。教会学校、幼稚園の子どもたちが守られるように。

東京教区の諸教会を覚えて。

## 今日の祈り

世界が主の御心である平和の実現のために、前に進むことができるように。

御言葉による礼拝が力づけられ、主のみ名による光が示されるように。

救いを求めている人々が教会に導かれ、福音に触れることができるように。

「誓いの愚かさ」 高橋和人

マタイによる福音書 14章1~12節

異色な記録である。他の箇所にはない異質でグロテスクな内容になっている。しかし、これは史実だ。ヘロデの王宮の愚かな人間模様の一場面だ。それが、バプテスマのヨハネの命を奪ったことで、人々と深くかかわっている。そこにはやりきれないほどの不条理を感じさせる。

主イエスの評判は領主ヘロデ・アンティパスにヨハネを思い起こさせた。ヨハネが生き返った、だから奇跡を行う力があるのだとヘロデはいう。

ここにはヨハネ殺害のいきさつがある。ヘロデはヨハネを捕えていた。恐れずに結婚を批判したから

だ。ヘロデは兄弟から妻を奪い自分のものとした。ヨハネの批判は律法に基づく(レビ18:16-20:21)。

ヘロデはヨハネが邪魔で殺そうとしていたが、ヨハネは民衆に信望があり影響力を持っていた。ヨハネは正しく、ヘロデは民衆を恐れた。

誕生日の祝いの日はその人の存在を祝う。ヘロデは権力者、それによって手に入れたものを誇る。妻も娘も奪って手に入れたものだ。妻ヘロディアの娘が舞を舞いヘロデを喜ばせる。ヘロデは褒美を誓う。愚かな誓いだ。

娘の名は福音書にはないが他の資料からサロメ「平和」とされる。文学、美術、演劇に著名だ。その名に反して、彼女は母にそそのかされて残忍な要求をする。ヨハネの首を求める。ヘロデは客の手前それに応じ、娘の要求通りに事が運ぶ。

信仰の存在しない違和感に満ちた場面だ。福音書が取り上げているのは、ここに世の姿があるからだ。一方では権力、欲望、自尊心、恨み、があり、他方では恐れに支配され、策謀にまみれ、人を犠牲にする。おぞましい人の姿、だが現実だ。その前で、信仰に生きること

歴史上このような人物は度々出現し、多くの犠牲者が生まれてきた。信仰はこの世の力に向き合っている。世の力は強く見える。しかし、主の恵みは救いを求めるものを実現する。信仰は世の力に飲み込まれることはない。神と共に生きるからだ。

王宮の出来事が世に関わる以上に、天にある御心が地に実現していることは教会の存在が示している。